

学校教育目標	「自ら考え」「ともに歩み」「新たな社会を創る」 【知】基礎・基本を確実に身につけ、自ら課題を見つけ、学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育みます 【徳】自らを律しつつ、他者とともに協調し、他者を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を培います 【体】たくましく生きるため、健康で安全に過ごすことへの理解を深め、自ら健康を保持増進しようとする態度を養います 【公・関】社会を自立して生き抜く力とグローバルな視野を備え、持続可能な社会の実現に向けて行動する力を育みます						
	学校概要	創立 52 周年	学校長 西山 雅人	副校長 山崎 信也	2 学期制	一般学級： 14	個別支援学級： 3
児童生徒数：		493 人	主な関係校： 港南台第一小学校・港南台第二小学校・港南台第三小学校				
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力			港南台第一中 ブロック		小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組		
＜自らを「拓く」力＞ コミュニケーション（発信力・傾聴力） シンキング（計画力・協調性） アクション（主体性・実践力）			港南台第一中学校 港南台第一小学校 港南台第二小学校 港南台第三小学校		主体的に学び、「まち」とのつながりを通して豊かな心を 身につけ、持続可能な社会を創る港南台の子ども 〇児童生徒の声や意見を学校経営に反映させ、学習指導・児童生徒指導の工夫・改善に生かして「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送れる教育環境を整える。 〇ブロック内の共通課題・共通テーマを明確にして合同授業研究を進め、ICT機器等を効果的に活用するなど、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 〇9年間を通して育てたい児童生徒像を地域や学校運営協議会と共有して「まち」と一体となり、児童生徒の成長を支援する体制を構築する。		
中期取組目標	〇「だれもが」「安心して」「豊かに」そして、楽しく生き生きと生活できる学校創りをめざします （１）授業力の向上や授業改善を図り、「確かな学力」と生徒一人ひとりが主体的に学び向かう意欲と姿勢を育成します。 （２）生徒一人ひとりの声に耳を傾け、誰一人取り残さない教育活動を推進して個に応じた能力と「豊かな心」を育成します。 （３）体力・運動能力調査データを活用した生活改善や食を通してＱＯＬへの意識向上を図り「健やかな体」を育成します。 （４）社会や地域の課題を理解し、自分の考えを発信する力を生かして、地域社会とともに「未来を拓く力」を育成します。 （５）ICT教育を推進して生徒一人ひとりの情報技能の向上を図り、「情報収集・選択・解決能力」を育成します。						
重点取組分野		具体的取組					
知	確かな学力	①学習する意義を理解させ、目的をもって学習に臨む意識を高めるとともに、グループディスカッション等の学び合いの場面を意図的に設定する。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学力・学習状況調査のデータをもとに授業改善に生かす。 ③授業アンケート結果を活用し、授業改善を図り学力向上を目指す。					
徳	豊かな心	①生徒の想いや体験をICT機器を活用して把握し、道徳の授業を通して自分の見方・考え方を自覚させ、自らの課題を解決する力を育成する。 ②道徳教育全体について校内研修を行い、共通の理解を深め、指導力向上を図る。 ③様々な活動を通して他者を思いやる心、生命や人権を尊重する心など、豊かな人間性を育む。					
体	健やかな体	①誰もが楽しく運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図り、さらに体育的行事や集会を主体的に運営する力を育む。 ②生徒がデータから自分や学校の状況を把握し、主体的に健康な生活を実践できるようにする。 ③中学校給食の全員喫食に向けて食育の推進を図り、校内体制を整えて生徒の健全な食生活を支える。					
公開	未来を拓く力	①教科等の学習内容とSDGs17の目標とのつながりを考慮し、教科を横断した課題解決能力を育成する。 ②ICT機器等を活用しながら実社会の課題を自分事として捉える視点を育む。 ③生徒会活動や学校行事をSDGsの視点で捉え、身近な課題や社会課題の解決に向け生徒が主体となる活動につなげる。					
いじめへの対応		①横浜St☆dyNavi等の活用や教育相談を通して生徒一人ひとりの声に耳を傾け、いじめ未然防止に努める。 ②子ども会議等の意見をもとに、生徒自らが考え行動できるように心の教育を行う。 ③誰一人取り残さないように見守り体制を整え、さらに保護者・関係機関との連携を強化し解決に向けて機敏に行動する。					
人材育成・組織運営(働き方)		①全職員が計画的・効果的な人材育成に対する意識を高め、職員研修やメンターチームの活動を充実させる。 ②学び続ける姿勢を大切にし、生徒授業アンケートの結果を検証する。また、研修情報の共有や外部講師を招いて研修を行う。 ③ICT機器等を活用して、校内統一の教材や資料を共有して業務軽減を図る。					
特別支援教育		①生徒一人ひとりの声に耳を傾け、すべての教職員が特別支援の必要性を理解し、一丸となって取り組む。 ②不登校生徒への対応を重点化するとともに、ICT機器等の利用や「取り出し」授業にも柔軟に対応する。 ③支援体制や支援方法を研究し、教材の研究・開発も行うことで、特別支援教室の運営を充実させる。					
GIGAスクール構想・教育DX推進		①ICT機器活用への技術的・心理的障壁を取り除くことを目指し、ICT機器等を活用しやすい環境を整える。 ②すぐる配信等を有効活用し、情報をタイムリーに発信する。 ③不登校生徒や特別支援室に通う生徒・保護者の想いに寄り添い、オンライン配信等を活用するなど学習保障に努める。					
生徒指導・生徒理解		①「横浜St☆dy Navi」等を活用し、日常的に生徒の心身の状態の把握に努める。 ②日頃からの声かけや教育相談を通して、生徒一人ひとりの想いに寄り添い個に応じた生徒指導に努める。 ③教職員間の情報共有の徹底を図り、組織的で機動的な生徒指導体制を構築する。					
地域学校連携事業		①学校運営協議会を効果的に活用して、よりよい学校経営を実現させる。 ②地域学校協働活動を充実させ、地域や関係機関等との連携を強化して、学びの機会・活動の場を広げる。 ③地域行事やボランティア活動を通して、地域に対する子ども達の思いや意見・アイデアを反映させる。					
担当		管理職・生徒指導専任					